



大阪部会(第 61 回)

日 時: 2018 年 12 月 1 日(土) 18:00~20:20

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 61 回の大阪部会の出席者は 20 名。今回は、普段東京部会に出席されている鈴木深氏、岡部ちはる氏(東京証券取引所)、中沖栄氏(清水書院)も参加した。

(1)まず中沖氏から『「公共の扉」をひらく 授業事例集』(東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会編著)の紹介があった。また丹松美代志氏(池田市教育委員会他)から社会科 NAVI(日本文教出版)が配布された。

(2)岡部氏から「会社を知ろう～企業の役割と目的～」「会社を応援しよう～株式会社のしくみと資金の調達～」と題した一連の教材および授業案が説明された。前者の教材では、企業が行っている活動を理解させるために、まず企業に関する基本的な短いビデオをみた後、8つの業種と各業種につき4つの事業プランが書かれた資料が配られる。グループで議論しながら、魅力的な業種および事業プランを選び、選んだ理由をクラスで発表・アピールすることで企業理解を進める。それを受けて後者の教材では、どのグループのどの事業を応援したいか、グループで選択し「いいねポイント」をつける。その後みつつのニュースが流れ、突発的な出来事によって業種や事業のポイントがアップしたりダウンしたりする。これは株式会社に対する出資とその後の株価の変動を意識したゲームであり、企業の資金調達の仕方を理解することにもつながる。この教材はすでに東京部会でも報告され、何人かの先生からのアドバイスを受け、ブラッシュアップが進められている。

(3)次に篠原総一代表(京都学園大学)から、鍋島史一氏(教育実践研究オフィス F)が東京部会で報告した「新テスト問題を視点に授業改善を考える」の資料が配られ東京部会での議論が紹介された。資料は、昨年が続いて本年 11 月にも行われた大学入試センターの新テスト試行調査(プレテスト)の出題に関するものであり、新テストの問題で要求されている力と従来の指導とにギャップがあることを指摘し、求められている能力を高めるための高校での学び方を提案している。東京部会では、どの科目においても読解力が強く求められる、生徒の二極分化が予想される、などの意見が出されたようである。なお、この内容は 1 月 26 日の札幌冬の経済教室で報告される。

(4)大塚雅之氏(三国丘高校)からは「新科目「公共」に向けて～起業と金融教育で活かす行動経済学の授業実践」として、6 次にもわたる授業計画が紹介された。そのうち前半部分の分業と交換ゲーム、職業選択と AI、社会の変化と技術革新については、すでに前回の大阪部会で報告されている。今回はその後半部分にあたる金融関連の授業で、起業のための資金調達から金融のしくみと必要性を考える、金融の技術革新の例としてクラウドファンディングを理解し評価する、銀行員として貸出と貸倒率・利子率との関係をつかみ間接金融を評価する、そして最終的には望ましい金融のしくみを構想する、と進められる。途中ではプロスペクト理論や損失回避など行動経済学の知見も取り入れられている。この内容は 3 月 16 日の年次大会(春の経済教室)で報告される。



(5)飛び入り参加の行壽浩司氏（越前市武生第六中学校）から、当日経済教育学会で発表した「公共財を題材にした教材開発～『雪かきゲーム』から考える～」が紹介された。マンション耐震工事を題材にした公共財ゲームなどを参考に、除雪料金を負担するかどうかを巡って5回のゲームを行わせている。福井県の実情に沿った雪かきを題材にした点、4人で複数の道路の除雪という設定にした点、積雪が溜まるとペナルティを課すなどの拡張が可能な点、など効果的に公共財の大切さを学ばせる教材となっている。

(6)奥田修一郎氏（大阪教育大学非常勤講師等）からは「未来を拓くアリとキリギリスの社会科授業」と題した報告があった。1月5日沖縄での経済教室で話される予定の内容である。回転寿司、年金、医療保険、働き方改革など、これまで奥田氏自身が行ってきた授業に新しい話題を加え、「公正」の観点からとらえ直すことを目指して作られている。出席者からは、誰もがどんな場合でも納得する「公正」概念はないので、どの場合にどのような「公正」が考えられるかを生徒に考えさせる授業にしたい、との意見が出された。

(7)河原和之氏（立命館大学等）から「<ジグソー学習>なぜ都市化が進むのか？」と題した、ジグソー学習を教員志望の大学生に体験させるために作られた授業例が紹介された。まず河原氏が強調したのはテーマ選びの重要性である。多面的多角的な視点が役立ち、議論やエキスパート学習によって理解が深まるようなテーマであることが必要だと述べられた。その後、授業内容と進め方が説明された。丹松氏など出席者からは、ジグソー学習の場合、エキスパート学習のあと元のグループに戻ったときに、各エキスパートの話聞くだけになることが多いので、そこを改善して議論や提案に結びつけることが難しいとの指摘があった。

(8)山本雅康氏（奈良学園中学高校）からは、現代社会や政経の小論文対策にもなる授業実践が報告された。まず新井紀子氏（国立情報学研究所）のTED Talk「ロボットは大学入試に合格できるか？」を見てワークシートにまとめることで、AIの現状と未来、人間の能力や仕事にAIが置き換わる可能性について問題意識をもたせる。その後、各グループが医療、金融、農業のいずれかに特化して先端技術・AIに任せられるか否かを、教科書と資料集に基づいて議論（エキスパート学習）する。そして医療、金融、農業がそろそろようにグループを再編し、それぞれの報告に基づいて議論しワークシートを埋めていく。AIは小論文テーマとしてポピュラーなものであり、このようなジグソー学習によって、大事なポイントが押さえられるように意図されている。

（文責 野間敏克）

次回開催予定：2019年2月2日（土）、時間は18:00～20:00、場所は同志社大学大阪サテライト（予定）。